

令和5年度 第2回居合道三段以下審査会 審査員講評

教士七段 関根 康幸

春の訪れを感じる中、令和6年3月16日に令和5年度第2回居合道三段以下の審査会が東京武道館大道場において開催することが出来ました。

はじめに、東京都剣道連盟千葉会長をはじめ東京都居合道部会伊藤会長および役員、係員の皆様には早朝よりご尽力頂き感謝申し上げます。

今回の審査会指定技は全剣連居合 一本目・五本目・六本目・九本目・十本目でした。

審査は、①正しい着装と作法・②正確な抜付け、切付け・③正確な血振り、角度・④正確な納刀が出来ているか、加えて全剣連居合審判・審査上の着眼点を基準に審査し当該段位に相応しいレベルに達しているかを審査しました。

●礼法について。

礼法については稽古されていると思いますが、慣れてこられると正しい礼法を忘れてしまい易きに流れてしまう様です、携刀姿勢から神座への礼の刀の持ちかえ、帯刀の際左手を左帯に送っていない、脱刀の所作で下げ緒をといたのち刀をわずか右前に引き出すところを、大きく引き出している等々、誤って覚えているように感じました。教本の「作法について」今一度読み解いて頂きたい。

●目付について。

座位も立位も4～5メートル先を半眼にて広く見渡す心持で気を四方にくぼる。(遠山の目付け) 技を始めたら仮想敵の目を中心に技を施すようにします、多くの方の目線は敵を捉えることなく全て同じ高さの目線で演武していました、敵の体勢位置により目線は変わります。

●一本目「前」について

一本目の技は、全ての基本が詰まった技です。

抜付けのとき、十分に鞘引きをしているか鞘離れの冴え（右足を踏み込むのと同時にしっかりと鞘引き、切っ先が飛び出し敵のこめかみに激しく抜付けている）を感じるか、切っ先が鯉口から離れるとき刃を横にして鞘離れしているか、抜付けたときの上体は約45度左に開いているか、左耳にそって後ろを突く気持ちに振りかぶっているか、間を置くことなく切り下ろしているか、切り下ろした切っ先はわずかに下がっているかについてしっかりと稽古を重ねて頂きたい。

●五本目「袈裟切り」

鞘を左下に返しながら刀を抜き出すところが、鞘の返しが不十分で鞘離れの後に小手先だけで逆袈裟切りの方や角度が鈍角のため右肩上方に抜き上げていない方が散見されました。中には袈裟に切り下ろした後、三本目の袈裟切りの切り下ろしの後と勘違いしたのか、所作で刃先を前方に向けながら両手を左前にして物打ち近くを右膝の上方におくって納刀していた方が数名おられた、技の練度が足りないことから勘違いしてしまうのだと思います。

●六本目「諸手突き」

抜き打ちの際、右斜め面から顎まで抜打ちしますが、抜打ちの角度が大きいことから、右ほほから顎までの抜打ちになっている方が多く見られました。また、諸手突きするとき次に向き直りの動作が続くことから、突きながら顔や体また踏み込んだ右足が向き直りに備えた動作になってしまっている、慌てることなくしっかり敵の目を見て水月を突いてから次の動作に移ることが大切です。また、向き直りの動作ときに踵回りの方、受け流しに振りかぶっていない方、さらに切り下ろしたと

き後足が撞木足になっている方が多く見られました。

●九本目「添え手突き」

一番は、左の敵に抜き打つ動作で「敵の右肩口から左脇腹まで袈裟に抜打ちする、右拳はへその高さで止め、切っ先は右拳よりわずかに上がったところで止める。」とありますが、多くの方が出来ていませんでした、袈裟に抜打ちしたときの右拳と切っ先の位置を今一度確認して下さい。

●十本目「四方切り」

右斜めの敵に柄打ちをするとき敵の目を見て強く柄打ちするところが出来ていません、多くの方が手元を見ながら形だけの柄打ちになっていました、どうしたら大きく強く柄打ち出来るかを考えて頂きたい。また、一重身になり左斜め後ろの敵の水月を突き刺すところ、鞘手の絞り込みが不十分な為、切っ先の位置が斜め後ろの敵ではなく、後ろの敵になってしまっている、さらに右斜め前、右斜め後ろの敵に切り込むとき後足が撞木になってしまっている。脇構えが正しくできていません、力が入り過ぎて切っ先が高すぎる方、正面から見ると切っ先が後ろから飛び出ている方が居ました。脇構えだけではなく、八相の構え、諸手左上段の構え方をそれぞれ確認して下さい。

おわりに、考え考え自信なく演武している方が多くおりました、稽古をして下さい。また、指定が無い限り切り下ろしたとき左手はへそ前で止め床に水平とあります、早く強く切り下ろしたいが為、切っ先が下がってしまっている方、また止まらずバウンドしてしまう方が多く見られました。

なかなか稽古時間が取れないと思いますが、限られた時間の中での稽古は一本一本気持ちを込めて正しく稽古することです、指導を受けたら素直に是正して稽古することです、悪い癖が付くと直すのが本当に大変です、教本の所作等を含めて良く読み解き正しく理解して稽古に励んで頂きたい。